

■東京プリンセス賞（SI）アラカルト（過去全 36 回の分析）

※第 16 回（平成 14 年）から第 17 回（平成 15 年）までは 1,790m で実施

※記録は令和 5 年 4 月 27 日時点

■ 1 番人気馬の 3 着内率は約 6 割

単勝 1 番人気馬は 8 勝、2 着 8 回、3 着 6 回で、3 着内率が 61.1%、単勝 2 番人気馬は 9 勝、2 着 8 回、3 着 2 回で、3 着内率が 52.8%、単勝 3 番人気馬は 7 勝、2 着 4 回、3 着 1 回で、3 着内率が 33.3%となっている。上位人気馬の好走率も決して低くはないが、前評判が低い馬にもチャンスのあるレースと言えそうだ。

■ 人気馬が上位を占めた例はさほど多くない

過去 36 回のうち 24 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 11 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回ある。

■ 外国産馬は未勝利

外国産馬の優勝例はなく、第 21 回（平成 19 年）のピュアーフレームによる 3 着が最高着順となっている。ちなみに、大井で施行される 3 歳クラシック競走のうち、外国産馬の優勝例がないのはこのレースだけだ。

■ 近年は浦和所属馬も健闘

所属別の勝利数を見ると、浦和が 4 勝、船橋が 16 勝、大井が 9 勝、川崎が 7 勝となっている。なお、浦和所属馬の優勝例は第 31 回（平成 29 年）のアンジュジョリー、第 33 回（平成 31 年）のトーセングーネット、第 35 回（令和 3 年）のケラススヴィア、第 36 回（令和 4 年）のスピーディキックと、いずれも近年のものである。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝の今野忠成騎手が単独トップ。石崎隆之騎手が3勝で単独2位、桑島孝春騎手、戸崎圭太騎手、張田京騎手、的場文男騎手、矢野貴之騎手が2勝で3位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、川島正行調教師が4勝で単独トップ。小久保智調教師と佐藤賢二調教師が3勝で2位タイ、足立勝久調教師、川島正一調教師、後藤稔調教師が2勝で4位タイとなっている。

■ 総じて内寄りの枠が好成績

枠番別勝利数を見ると、1枠と3枠（各8勝）がトップタイ。2枠（6勝）が単独3位、4枠（5勝）が単独4位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、1番と4番（各6勝）がトップタイ。5番（5勝）が単独3位、8番（4勝）が単独4位となっている。なお、未勝利の馬番は9番、12番、15番、16番だ。